

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300060		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホーム ルミエール雪浦(西棟、東棟)		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町雪浦下釜郷40-6		
自己評価作成日	令和6年9月20日	外部評価結果確定日	令和7年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然に囲まれた環境でリビングにあるベランダや居室からゆったりと流れる川や山を臨むことができ入居者様の憩いの場になっています。
・協力医療機関の医師による週1回の往診や、年2回の健康診断で入居者様の健康管理に努めています。
・行事は各月の誕生日会をはじめ夏祭り、敬老会、クリスマス会、節分など季節ごとに行うことで四季を感じて楽しみがある生活を送って頂ける努めています。
・毎月の機関紙「ルミエール便り」、「個人便り」を家族の方へ発送し日頃の様子を伝え安心して頂くように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JgvsvoCd=4292300060-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和6年11月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな場所にあり、平屋建てで東と西に分かれた2ユニットのグループホームである。広いベランダがあることにより、車椅子のまま外に出ることができ、事業所の目の前の川や山を眺めながら、日光浴ができています。法人が医療機関と同じ系列であることから、医療機関からすぐに指示を受けることができている。食事に関しては、トレイに一人一人の入居者の氏名と食事に関する注意しないといけない内容のシールが貼ってある。また、例えばご飯の必要な分量が決まっている入居者は、茶碗に何グラムというシールが貼ってあり、食事に関する一覧表も作成することで、誰が見ても配膳しやすい工夫となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「地域福祉に貢献」、「常にご利用者の満足の追求」、「職員間の和をもって明るい職場づくり」を確認できるよう掲示している。	法人の理念とは別に、「思いやる、笑顔で接しましょう」という事業所独自の理念を掲げて、事業所内のいつも職員が目につく場所へ掲示をしている。この理念をもとに、職員は入居者とコミュニケーションをとる時には、傾聴しながら優しく伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症対策の緩和により今年度は慰問など行ない入居者の方の楽しみが増えている。また地域行事の「雪浦ウィーク」に参加でき地域交流できた。	雪浦ウィークでは参加者へのお菓子配布、事業所の駐車場でのミニコンサートの開催、事業所の夏まつりには、舞踊の方を招待、敬老会では地域の保育園と学童の子どもが太鼓等を演奏してもらい、今年度より地域との付き合いが徐々に回復している。今後、小学校の運動会に参加をする等、地域の子供達との関わりを深くしていきたいとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事(雪浦ウィーク)に参加でき利用者の方と地域の方との関りができた。また今後学童、保育園、小学校の慰問など計画がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より対面にて運営推進会議を行っており活動報告し意見などいただき取り組んでいる	運営推進会議の内容は、まずは事業所からの活動報告をし、参加している方からの報告や意見を聞く流れである。近隣のグループホームの方は、開設時より運営推進会議のメンバーとなっており、同じ業種として貴重な意見を聞く機会となっている。今後は、運営推進会議を通して、地域住民との関わりを密にしたり、入居者の作品を展示できるよう、行政関係が主催をしている文化祭等の情報を得ていきたいとの希望である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加で活動報告を行い、現状など伝え情報交換を行なっている。	介護保険の申請や更新で、市役所へ出向くことはあるが、不明な点がある場合には、まずは本部へ問合せをしている。最近では、職員の人数が不足をしている為、入浴の回数を変更することの確認を市役所へ尋ねたことがあったとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で一体的に行なっている高齢者権利擁護委員会に当施設の委員が参加し会議などで報告している。また身体拘束、虐待防止の研修を行い全職員が受講できている。	身体拘束は、原則実施をしないとのことであるが、万が一に備えて、身体拘束に関する手順書を作成している。身体拘束について間違った認識をしないために、職員に対しては、車椅子を移動をしている時に、「このような対応は身体拘束にあたる」と、実践を踏まえながら直接口頭で伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で一体的に行なっている高齢者権利擁護委員会に当施設の委員が参加し会議などで報告している。また身体拘束、虐待防止の研修を行い全職員が受講できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で一体的に行なっている高齢者権利擁護委員会で、成年後見制度が必要な時に支援ができる体制をとれるよう学ぶ機会をつくっていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者また介護支援専門員がご本人、家族の方と面談を行い説明を行なっている。また契約時の質問などには丁寧に対応し不安がないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し意見、要望を受け付けている。また面会時などの際に何か要望がないかお聞きするようにしている。	入居者からは、家に帰りたいたいの要望があるとのことである。訪問調査時に、家に帰りたいたい要望がある入居者が、事業所の駐車場が見える場所に座り、ご家族の迎えを待っていた。他の入居者がいる場所から離れた場所になるが、入居者自身が落ち着く場所で時間を過ごせるよう、職員は転倒などに注意しながら見守りをしている。ご家族からは、外泊や外出をさせたいとの要望があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、申し送り、毎月1回の会議で意見や提案を出し合い業務改善など行なっている。また職員がコミュニケーションをとれる環境になるよう努めている。	管理者は新人の職員とは入職1ヶ月後に、その他の職員は、年2回面談を実施している。新人からの仕事の悩みを聞き、その他の職員からは業務内容の相談、特に人材確保についての相談が多い。人材確保は、どの介護事業所も抱えている課題でもあり、本部へ報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人では各職員の業務の取り組みやその姿勢、結果に対する評価テーブルの見える化を行い、個別面談によるフィードバックを毎年2回行うことで向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修受講の費用の支援を行うことで各職員がスキルアップしやすい環境を整備している。、また毎月2回協力病院の医師による研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の方の参加があり、情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ関わりを持てる時間をつくり、不安や要望を話しやすい環境にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている事を理解し、施設ではどのような対応ができるか事前に話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに来る事は実行し、出来ない事も検討など行い対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で、各入居者の方が出来る事をして頂く事で職員との信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「ルミエール便り」、「個人便り」、でまた面会時などで日頃の生活の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策緩和の為居室などで面会を行なって支援している。	コロナ禍でも、窓越し面会を実施してきており、現在でもご家族や近所の方の面会が多い。入居者同士が近所に住んでいた場合もあり、馴染みの関係は継続できている。事業所の周辺には、買い物をする場所がなく、今後移動販売車を検討していきたいとのことである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行う事やレクリエーション等に職員が声掛けなどし他者との関りを持てるようにしている。また交流できるスペースを設けて会話が出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日浦グループ(法人、医療機関)でサービスが終了しても必要に応じて相談、支援を行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の思い、希望、意向など日々関りを持ち把握するように努めている。	職員は、業務の合間に入居者と関わりを持ち、日々の会話や行動観察をすることで思いや意向をくみ取っている。表情や行動が急に変化した時は行動の予測をたて柔軟に対応している。地域の方言を理解できる職員がいて、入居者とコミュニケーションを取りやすい環境であり、会議や朝夕の申し送りの際に、些細な事でも職員間で共有し、入居者ひとりひとりに合わせた支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、ケアプラン作成後はモニタリングを定期的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態、様子を記録に残している。また状態など変化があれば申し送りなどで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者がモニタリング、他の職員との話し合いを行いケアマネジャーが介護計画を作成している。	同法人の施設や自宅からの入居になることが多い。ケアマネジャーが主体となり施設やご家族からの情報を基にアセスメントを行い、暫定介護計画、モニタリングを繰り返し、介護計画を作成する。半年に1回の見直しになるが、状況によっては早期に見直しをする場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様ごとに日々の暮らしを記録し、職員間の申し送り等で情報を共有する事で実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族のその時の状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員、小学校、地域代表、家族代表に参加していただき周り情報や支援に対する情報交換、協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、ご本人や御家族が希望する医療機関を受診している。協力医以外は基本的に御家族対応になり支援を行っている。	近場に母体となる医療法人のクリニックがあり、毎週金曜日の往診で入居者全員を診察する。同法人内の他科受診は職員が対応をするが、他の医療機関にかかる場合は、家族に依頼している。クリニックの院長は、月2回職員に対し、介護職員による応急処置のやり方など勉強会を開き、職員の知識を増やし業務に役立てている。夜勤の職員2人で、翌日用の薬を入居者毎に分け交互で確認、服薬前も確認をして誤薬を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態など記録や申し送りで介護職、看護職の情報を共有し週1回の往診時に協力機関の医師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで医療機関との情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りは行なっていない。重度化、急変時には、法人内の他の施設やグループの医療機関へ移っていただく事を入居時に説明している。	重要事項説明書には、入居者の病状、心身状態が悪化し、適切なサービスが受けられない場合は退去となると記載されており、入居時に家族に説明し同意を得ている。食欲が落ちる、視力が悪くなるなど病状が悪化したら、かかりつけ医に連絡し指示をうけ母体の病院へ入院となる。事業所だけではなく関連施設全体で、入居者を最期まで見守る形をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを作成し、全職員が指導を受けいつでも対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、自然災害の避難計画を作成し、それぞれ避難訓練を計画、実施している。また令和4年度より西海市独自の避難確保計画書を提出している。	職員は、台所の火気設備、電気設備等をチェックリストで毎日確認をしている。事業所内の倉庫には避難用の食料、日用品が備えられていた。消防訓練、避難訓練など部分訓練を毎月行い、そのうち年2回消防署員と合同訓練を行った。事業所は、川のすぐ側にあり、水害の被害に備えての避難先として、同法人の施設を利用することを案としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守る声掛けを行なっている。	名字か下の名前で呼ぶかは、決まてはいないが、必ず「さん」をつけて話しかけ、自己決定しやすい言葉かけを行う。法人本部では、個人情報に関する研修動画を職員に見てもらい、レポート提出、テストを行っている。管理者は職員が不適切な対応をしていると思うと会議の場で全体に対し注意喚起をし、気になる場合は個別に対応している。お便りの写真掲載に関しては、ご家族の同意を得ている。	プライバシー確保や言葉かけについて、職員一人ひとりが見直しをする機会がないとのことである。今後、例えば年1回、振り返りシートのチェックリストを用いて、職員一人ひとりが見直しをすることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けには職員都合での考えではなく入居者の方が自己決定できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、各入居者の方のペースや体調、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装選びはご本人が決めることができるような声掛けを行なっている。また定期的に訪問カットでの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様ごとの食事形態、嗜好等を把握しできるだけ対応している。また入居者の方が使用するエプロンを準備していただいている。	母体である病院の管理栄養士が作成した献立表を参考にして食材を業者に注文し配達してもらい、職員または、シルバー人材センターの派遣社員が週2回来て調理をしている。入居者が嫌いなメニューがある場合は、同じ食材を使い、違うメニューに変更して提供する。名前入りのテプラがトレイに張られ、茶碗にも、ごはんのグラム数を記入したテプラを貼っている。食事管理の一覧表を確認しながら配膳をするなど、食事提供業務を見える形にして標準化している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方には食材を変更するなどしてできるだけ対応している。また居室でも水分補給が行えるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科往診を行なっている。また自分で歯みがきができる方には声掛けし、できない方には毎食後ケアを行なっている。異常時には歯科医師へ報告している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居様ごとの状態に応じて介助を行ってできる事を見つけた支援を行なっている。排泄の自立に向けた支援を行い紙パンツ、パッドなど検討を行なっている。	大半の入居者は、紙パンツを利用し夜だけ数名おむつを利用している。おむつから紙パンツへ、パッドを大から小へ変更するなど改善を行っている。職員は、排泄チェック表を必ずつけて、時間を見計らい誘導する入居者もいる。自立していても、排泄後の衛生面も管理している。トイレがない部屋にはポータブルトイレが置いてあり、夜間に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の嗜好を確認、提供する飲み物を工夫し水分補給をしやすい環境づくりを行なっている。また体操などで体を動かすレクリエーションも適宜に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はある程度決まっているが本人様に要望を伺い、日時など変更出来るよう柔軟に対応している。	皮膚疾患がある入居者は週3回、他の入居者は週2回入浴し、事業所が用意した入浴剤を風呂にいれると入居者から喜ばれている。入浴しない日は、清拭、陰部洗浄をする。入浴を極端に嫌がる入居者には、前夜の夜勤の職員が朝早くから声かけをして、入る意思があれば速やかに入浴介助をする。異性介助になるが、ご家族からは同意を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様ごとの習慣や体調、希望に応じて休息や入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬の種類や副作用などの把握に努め体調面など変化があった場合には医師へ報告している。また服薬時は職員同士でダブルチェックを行い飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などの情報を確認、またできる事を見つけ楽しみがある生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候が良い時にはベランダに行き自然を眺められまた春は桜を見に出かけた。家族対応で外出される方もあり支援を行なっている。	敷地内は砂利が敷いてあり、玄関から車まで車いすで移動することは、職員にとっては困難である。しかし、春には入居者を数人に分け、数回往復して近所に桜の花を見に行った。外出、外泊は家族対応となり、食事の要否を尋ね、薬を持たせている。日々の生活の中では、天気の良い日に共用スペースからテラスへ出て景色を眺めながら日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援は行なっていないが金銭を所持されている方から欲しいものがあつた場合には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を書く方には希望にできるだけ応えるよ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから外の景色が眺められるような環境にし心地よく過ごしていただいている。また天気の良い日はベランダに出て日光浴ができる。室温などは入居者様へ確認や本人様が自由に設定できるようにしている。	東、西の2つのユニットの間に、広々した共用スペースがある。2つのユニットから入居者が集まり、テレビを見る、チラシでゴミ箱を作る、洗濯物をたたむなど、入居者毎の生活をしている。ほぼ毎月、誕生会を行い、担当職員からお祝いの手作り色紙が渡される。歌や踊りがあり、賑やかで楽しい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファーや椅子を置いてゆったりと外を眺めたり、会話をしたりテレビを見たりなど思い思いの事ができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族の方に希望や確認を行い生活環境をなるべく変えないように配慮している。	クローゼットとタンスが備えられていて、各部屋配置を変えている。テレビは持ち込みができ、タンスの上には家族の写真などが飾ってある。入居者が部屋に入るのを間違えないように、部屋のドアは、日中開けている。各部屋のベッドの上には、眠りスキャンを設置し、転倒リスクがある入居者の部屋に見守りカメラを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下も広く移動しやすくなっているため、できるだけ残存機能を生かしてご自身で移動していただくようにしている。その際転倒などリスクがある方は見守りを徹底している。		